

東京民医連

東日本大震災 ニュース

2011年3月22日

No.29

発行：東京民医連事務局

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

メール：sien@tokyominiren.gr.jp

健生会グループ 第4次支援団、本日早朝に出発！

友の会の皆さん、地域の民主団体、業者等から寄せられた貴重な支援物資をたくさん積みこみ、健生会グループ第4次支援団が、本日5時、2台の車で坂総合病院(宮城県)へ出発しました。

今回の支援団は、久島 昭浩医師(立川相互病院)、秋山 聡香医師(立川相互病院)、押部 真由実看護師(立川相互病院)、喜多 梢看護師(立川相互病院)、石塚 貴之事務(ふくじゅ草)、米内 悠介事務(立川相互病院)の6名です。



健生会 相互歯科チーム現地報告

午後より2箇所の避難所へ。のべ相談・診療20人、歯ブラシ90本配布。1週間歯ブラシできない、水がなく義歯洗えず、歯のいたみ、義歯不調、脱離など、2~3日前より訴え増加。その後、野蒜地区視察、まさに地獄の惨状。今晚、札幌隊歯科医師4、衛生士4、技工士2名。全体で10人の全日本歯科部隊形成、チームにわけ野蒜地区10数ヶ所の避難所をスクリーニング調査開始。同時に、海岸歯科への送迎も検討。さらに、22日は利根隊が午後より参加予定。

(松澤 広高Drより3月21日の報告)

東京民医連 現地支援隊 第3陣帰着報告(杉浦 秀明医師部副部長報告)

3月17日~20日現地支援に行ってきました。塩釜市、多賀城市の坂病院周辺は比較的地震による建物被害は少なく電気、水道もほぼ復旧しつつあります。ガソリンなども週末に大量に運ばれ、今週からは物流も復旧すると思われます。町の様子は水道が不通だった事もあり、やっと道路が通れるようになり、津波を被った家々から泥まみれの家財が道路に出された状態で、自宅に戻るにはまだまだ時間がかかりそうです。営業している商店は少なく、食料品を中心とする物資不足は深刻であり、一週間以上にわたる避難所での貧しい食事と寒さは早急に平常生活に戻れるよう福祉の手を差し伸べないと被災者の皆さんの健康に深刻な影響を及ぼすと思います。

20日帰任時に松島の状況を見てきました。ここも建物の倒壊は少ないですがやっと道路のごみと泥が片付けられ、車が通れるようになった状態。地盤が70cm以上下がったせいか、訪ねた時ちょうど満潮時で、汚水口から海水が逆流し、川の水は堤防ぎりぎりまで水かさが増している。海拔0メートル地帯となっていました。周辺のお土産物屋などは、まだ泥だらけの状態、観光地松島の復活には相当時間がかかりそうです。一日も早く「松島海岸診療所」にも支援拠点を作り、避難所訪問等避難している皆さんの健康を守る活動が求められます。